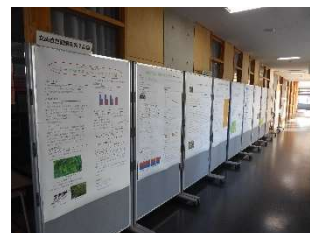


探究件数日本一 BIG EXPLORER

文化祭SSH・探究発表会

- ◇期 日:令和5年10月31日(火)
- ◇場 所:本校人文社会教室
- ◇発表者:実習・研修・大会等参加生徒代表
- ◇参加者:本校生徒・本校教職員・保護者等



文化祭では、2023年前期に行われたSSH事業や探究活動等に参加した生徒が、それぞれの活動を報告するプレゼンテーションを行い、併せてポスターを展示した。

まず探究科学科1年生は、7月に行った立山自然観察実習と県内施設・企業研修について報告した。立山自然観察実習は、学校から美女平、そして弥陀ヶ原、室堂へ向かい、約36時間、標高差にして約2,300mという充実したかつ過密な日程で、ブナ林の調査、高山植物の観察、星空観察などを行い、ライチョウに遭遇したり、スターリンク衛星群を観察したりと、未知との遭遇の連続だった。今回は15H代表が「美女平の階層構造」について、16H代表が「室堂の高山植物」について発表した。

同じく1年探究科学科の県内施設・企業研修の発表では、富山県が世界に誇る企業であるスギノマシンや榊田酒造店を訪問して、そこで知り得た新たな視点や再発見したふるさと富山の魅力を伝えた。榊田酒造店社長の榊田隆一郎氏からお話を伺いながら、氏の熱量に負けないように必死に質問を重ね、今まで思ってもみなかった考え方やものの見方を数多く吸収したこと、スギノマシンでは、ウォータージェットを使った加工の様子を実際に見て、その繊細さに驚き、常に前進するという信念、また製品を使う相手のニーズを考えて生産するという強い思いが感じられたことが報告された。

2年生は、7月に実施した富山大学薬学実習について発表した。高校では体験できない最先端の高度な研究について、目的・方法・結果・考察・感想・謝辞と発表の流れを意識した構成で報告した。実習では大学内の研究室や図書館などの設備も見学でき、大学で行う研究がいかに本格的であるかが伝わってきたそうだ。また、薬学には多種多様な分野があり、化学、生物、物理など様々な視点から研究する必要がある学問だと分かったという。この実習で、くすりが私たちの生活を健康で豊かなものにし、多くの人を治していること、そして、くすりの製造がいかに難しいものかを改めて実感したのが大きな学びだったということが伝わってきた。



また8月7日からの3日間、東京大学本郷キャンパスにて行われた東京大学研究室実習の発表では、プログラミングに関する研究を行った班が自分たちでつくったプログラムでロボットを走らせる研究を報告した。参加者が最先端の科学研究に直に触れ、より一層科学に興味をもつことができたことが分かった。



3年SS発展探究の数学班の生徒は、令和5年度全国生徒研究発表会で発表した「富山市の電力網とグラフ理論 ～安全性と効率性～」についての研究の概要・テーマ設定・研究活動などを紹介した。発表会を通して、小さな気づきや疑問が大きな研究となる、研究の楽しさを改めて感じる事ができたという。3年間の探究活動の集大成として中身の濃い発表がなされた。3年間の活動で身につけた探究への姿勢や熱意が、聴き手の後輩たちにもしっかりと響いていた。



3月に行われたオーストラリア研修の報告は、ニューサウスウェールズ州コフスハーバーでの研修について、ホームステイ先での話、ドリゴ国立公園やマトンボード島などでの自然に関する研修、パートナー校であるセント・ジョン・ポール・カレッジでの活動などについて、研修参加者から体験を聞く貴重な機会だった。また7月のアメリカ研修の発表では、サンフランシスコ、シリコンバレーを中心にした、充実した語学

研修、Google、Apple の本社、MLB・San Francisco Giants の本拠地オラクルパークの訪問という有意義な体験が報告された。また、世界中の若者が学ぶ Stanford University、UC Berkeley のキャンパス訪問の報告からはアメリカの豊かな教育環境を知ることができた。併せてホスピタリティ溢れるホームステイの経験も報告された。

ロゲイニングという生徒会の企画とのタイアップもあって多くの生徒が会場を訪れ、発表に熱心に耳を傾けていた。